

地域振興対策で8千6百万円の補正予算

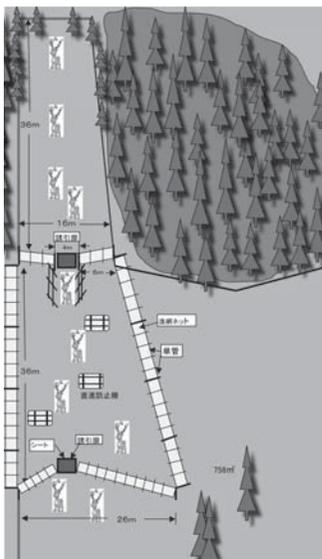
平成22年度決算に1億7千497万円の繰越金が出たことにより、町民生活の改善、課題・懸案事項を中心に繰越金を財源とした地域振興対策として8千6百万円を含む総計1億5千263万円の大型の補正予算が組まれました。

補正予算

エゾシカ捕獲用の 囲いわな設置

190万円

今後も増加が見込まれるエゾシカの個体数を減らし、被害を軽減するため、一斉捕獲が可能な囲いわなを設置し、効果や有効性を確認しながら駆除をします。



今年の秋に町営牧場サラウンナイ牧場に設置し、来年春からの捕獲を予定しています。



囲いわな無線式ゲート

新規作物の研究 ハウスなど設置

1427万円

バイオガスプラントの熱エネルギーを有効利用し、新規作物などの試験栽培を実施するため、2棟目のビニールハウスを設置します。



1棟目のバイオ・ビニールハウス

暮らし応援 商品券事業助成

2000万円

地域経済活性化と更なる鹿追町民のくらしを応援する25パーセント割増しの「活き生き商品券」7千セットの発行に1千820万円と、商工会主催の年末大売出し「生活・応援セール」に180万円の助成をします。



活き生き商品券 (2009年)

放射線量測定器購入

52万円

町内で生産される農畜産物のγ線の測定を行い、安心・安全な農畜産物であることを確認します。γ線が測定できることにより、セシウム及びヨウ素の測定が可能です。

読書フェスティバル INしかおい

23万円



絵本や家庭での読書を通じて子どもへの読書を普及するため、ボランティアによる実行委員会が主体となり「読書フェスティバルINしかおい」の開催を計画。その一部23万円を追加しました。フェスティバルでは、「パパはウルトラセブン」などの絵本作家宮西達也さんの講演会や大谷短期大学生と図書館ボランティアによる演劇の鑑賞会などが計画されています。

意見書提出

委員会発議で 意見書を国に提出

軽油引取税等に関する意見書

農業用の機械等に使用する軽油については、一定の手続きを受け、軽油引取税を免除するという制度が平成24年3月31日まで継続されます。



しかし、その後の国の対策が不透明であることから、鹿追町農民間体連合会(上嶋誠一会長)と鹿追町農業協同組合(佐藤雅仁組合長)から軽油引取税の免税措置の恒久化について請願があり、産業厚生常任委員会では審査を行い「基幹産業である農業及び地域経済を守るため」との理由から採択、内閣総理大臣ら関係大臣に意見書を提出しました。

公民館のテーブルと イスを購入

581万円

町内の公民館分館で老朽化したテーブル・イスについて希望をとりまとめ、テーブル99台、イス297脚を更新します。

公共施設バリアフリー

294万円

地域集会所などの公共施設に手すりを取り付けるなどバリアフリー化をします。



町立病院のバリアフリー (工事中)

学校教室用網戸設置

647万円

蜂の侵入を阻止するため上幌内小(既設)をのぞく6小中学校の教室の半分の窓、全345枚分の窓に網戸を設置します。

